

令和元年度 事務事業評価(平成30年度実施事業事後評価)シート / 令和2年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報										整理番号	005							
事務事業名	交通対策経費			補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	02	項	01	目	06	事業	03
担当部	市長公室	担当課	市民と共に考える課		担当係	行政経営係		係										
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input checked="" type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称:)				根拠法令及び市条例等	<input checked="" type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称: 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称:) <input type="checkbox"/> 市の条例・要綱・規則等 (名称:)												

2 事務事業の目的										当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か？→ ②一方で、「現状や課題」はどうか？→ ③そのためには何をすべきか？ という過程で考えていただいても結構です。									
現状課題	【現状】	①交通機関の整備に向け、沿線自治体と連携し関東鉄道常総線の利用者拡大及び安全強化に取り組んでいる。②本市の公共交通政策全般について「常総市公共交通活性化協議会」を設置し、公共交通のあり方を検討している。																	
	【課題】	①予約型乗合交通ふれあい号の利用者の減少している。②市民アンケートによると、本市から引越したい理由の第1位が「交通が不便」である。そのため、公共交通の充実が重要な課題となっている。																	
	誰・何を対象に	すべての市民																	
	どのような方法・手順で	①タクシー事業者と連携し、予約型乗り合い交通ふれあい号の利便性向上を図る。 ②常総線沿線自治体の連携による常総線活性化や、安全運行のための整備支援を進める。 ③路線バスの運行維持のため、鉄道との連携により乗り継ぎなどの利便性向上と利用促進を図る。																	
	望ましい状態	既存の鉄道や路線バスを上手に活用し、暮らしやすいまちを実現する。民間の交通事業者だけでは補えない部分は、行政や地域住民がカバーし、最適な公共交通網を形成する。人の移動を促すことで地域の活力が生み出され、さらに暮らしやすいまちへと改善していく。																	

3 事務事業の主たる成果指標										数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。										
指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者数	単位	人	目標値	96	目標年次	2020	年度		指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	現在1日あたり8時間運行、6台態勢である。1時間16人利用*6台=96人よって16人/8時間→乗合人数2.人を目指す。※運行開始時からの平均乗合率は1.9人									

4 事務事業の実績 ⑩										当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。											
年度	平成28年度				平成29年度				平成30年度												
	業務名	活動量	活動量	活動量	業務名	活動量	活動量	業務名	活動量	業務名	活動量	活動量									
事務事業を構成する主な業務	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	3回 240日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 241日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 240日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 240日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 240日	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 240日									
	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線ガイドブックの作成	3回 5,000部	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線PRプロダクターズの開催	3回 1回	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線Instagramツアーの開催	3回 1回	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線Instagramツアーの開催	3回 1回	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線Instagramツアーの開催	3回 1回	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線Instagramツアーの開催	3回 1回									
	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	6回	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	5,000部	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	7回	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	50,000部	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	5回	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	5回									
	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	3回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	3回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	4回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	1回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	1回	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	1回									
	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	1回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	1回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回									
	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回									
	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回									
	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回	⑧ 第41回都市計画セミナーへの参加	1回	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回									
	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑨ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回									
	目標値に対する実績値	84 人		目標値に対する実績値	82 人		目標値に対する実績値	87 人													
決算額	計	36,000,836 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	36,000,836 円	計	38,305,508 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	38,305,508 円	計	38,547,477 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	38,547,477 円
	(住民一人あたりの行政コスト)		592 円		(住民一人あたりの行政コスト)		634 円		(住民一人あたりの行政コスト)		643 円										

5 担当者評価 ③										実施したことによる成果や問題点を記入してください。									
成果	目標未達成	利用者の利便性の向上を図るため、昨年1月から利用券の車内販売を開始した。その効果から、今年度の利用者数は、事業者が廃業し車両が1台減少したにも関わらず、前年度を上回った。また、利用者の声を聴き改善策を探すため昨年9月にアンケートを実施したが、利用券の車内販売は、非常に好評という結果が示された。さらに公共交通の啓発を目的に県補助制度を活用して公共交通ガイドを作成し、全戸配布を行った。数値目標の達成には至らなかったが、利用者数増加から一定の効果があった。																	
	問題点	問題点として、利用者アンケートにおいて利用者の8割が70歳以上の高齢者であることもあり、全6台中3台導入のワゴン車の乗り降りがしにくいという意見があった。乗合率が1.8人ということも鑑み、全車両をセダン車にすることで利用者のサービス向上を図りたいと考える。また、地域公共交通の基本的な考え方は、既存の民間公共交通機関を維持・保全・活性化させることが最優先であり、行政が主導的に行う公共交通の事業は、あくまでも民間交通事業者を補完する立場で行うものであることから、市民への啓発活動も引き続き実施していく。																	

6 担当部長及び担当課長評価 ③										担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。									
事務事業の方向性																			
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止																			
本市の公共交通は決して充分とは言えないため、民間の公共交通を補完する目的でふれあい号を運行している。昨年度は新たな利用者への周知のため、公共交通ガイドを作成した。また、既存利用者の利便性向上を目指し、車内販売を実施し、アンケートを行い声を聴いた。その効果もあり、前年度比利用者が増加したという一定の効果が出ている。今後ともアンケート等で利用者の声を聴き、利便性の向上に努めていく。なお、導入当初から利用料金の見直しが行われていないため、受益者負担の観点から、また、ふれあい号事業を持続していくためにも利用料金の適正化を図ってまいりたい。																			

7 実施計画 ⑨										今後3年間の事業内容について、どのようなことをどの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の「歳出の計」と「歳入の計」は一致させてください。									
年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度										
事業内容	1予約型乗合交通ふれあい号に関すること				1予約型乗合交通ふれあい号に関すること				1予約型乗合交通ふれあい号に関すること										
	●「常総市公共交通活性化協議会」へ負担金支出 ※市が事務局を務めている。主な業務は以下のとおり。 ①会議開催②国庫補助金の申請③協議会の会計など ●運行業務内容 ※予約センターの運営は社会福祉協議会市が行う部分→予約システムの借上料の支払い、利用登録・利用券販売等、予約センターオペレーターとの意見交換 ※R1.10月より予約システム入れ替え 2地域公共交通活性化協議会に関すること ●負担金支出及び会議・研修会出席 3鉄道事業者に関すること ●関東鉄道常総線への赤字補てん及びイベント協賛 ●関東鉄道常総線を活用した沿線地域のPR事業 ●地下鉄8号線誘致促進会への負担金支出及び会議参加 ●東北新幹線新駅設置検討会への出席 4茨城空港に関すること ●利用促進協議会への負担金支出 5【11月補正】地域公共交通網形成計画の策定 要求10,000千円 ※常総市公共交通活性化協議会に国等補助が例年5,000千円超えるため、決算は毎年下がる。さらに、網形成計画策定後は国補助の算定式が有利になる。(H30決算ベース約4,000千円増)				●「常総市公共交通活性化協議会」へ負担金支出 ※市が事務局を務めている。主な業務は以下のとおり。 ①会議開催②国庫補助金の申請③協議会の会計など ●運行業務内容 ※予約センターの運営は社会福祉協議会市が行う部分→予約システムの借上料の支払い、利用登録・利用券販売等、予約センターオペレーターとの意見交換 2地域公共交通網形成計画の策定(R1補正対応) 継続費設定(R1:2,000千円、R2:5,000千円) 3県公共交通活性化協議会に関すること ●負担金支出及び会議・研修会出席 4鉄道事業者に関すること ●関東鉄道常総線への赤字補てん及びイベント協賛 ●関東鉄道常総線を活用した沿線地域のPR事業 ●地下鉄8号線誘致促進会への負担金支出及び会議参加 ●東北新幹線新駅設置検討会への出席 5茨城空港に関すること ●利用促進協議会への負担金支出				●「常総市公共交通活性化協議会」へ負担金支出 ※市が事務局を務めている。主な業務は以下のとおり。 ①会議開催②国庫補助金の申請③協議会の会計など ●運行業務内容 ※予約センターの運営は社会福祉協議会市が行う部分→予約システムの借上料の支払い、利用登録・利用券販売等、予約センターオペレーターとの意見交換 2地域公共交通網形成計画に沿った事業実施 ※現時点では事業費算出不可 3県公共交通活性化協議会に関すること ●負担金支出及び会議・研修会出席 4鉄道事業者に関すること ●関東鉄道常総線への赤字補てん及びイベント協賛 ●関東鉄道常総線を活用した沿線地域のPR事業 ●地下鉄8号線誘致促進会への負担金支出及び会議参加 ●東北新幹線新駅設置検討会への出席 5茨城空港に関すること ●利用促進協議会への負担金支出										
成果指標	指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者	単位	人	目標値	100	指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者	単位	人	目標値	96	指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者	単位	人	目標値	96	
予算額	歳出	計		54,059 千円		歳出	計		47,173 千円		歳出	計		42,000 千円					
	歳入	特定財源		0 千円		歳入	特定財源		0 千円		歳入	特定財源		0 千円					
		一般財源		54,059 千円			一般財源		47,173 千円			一般財源		42,000 千円					
		計		54,059 千円			計		47,173 千円			計		42,000 千円					

8 財務アドバイザーの見解									
『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いと判断された。2018年度の一般財源決算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。									

9 行政改革懇談会(市民)の意見									
担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。ただし、近年高齢者の事故が増えており、公共交通の重要性が増している。ふれあい号の運行便数の増や市内巡回バスの導入などさらなる事業の充実を要望する。									

10 最終評価(行政改革推進本部) ③									
事務事業の方向性									
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止									
評価理由 ふれあい号の利便性拡大についても引き続き取り組むこと。なお、ふれあい号も運行を開始してから10年が経過したことを踏まえ、まちづくりの方向性も視野に入れた地域公共交通全般のあり方や考え方について検討してもらいたい。									

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ④										実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。									
地域公共交通はまちづくりの要であり、地域公共交通が充実することで、生活しやすく誰もが外出しやすいまちが形成されると考える。そのため、地域にとって望ましい公共交通網の在り方、住民、交通事業者・行政の役割を定める「地域公共交通網形成計画」を策定する。これにより、当市の交通政策の在り方や個別の事業の実施理由や効果が明らかになる。 ※地域公共交通網形成計画策定は、R元年補正予算対応のため、R2当初予算は「現状維持」とした。																			